

## 2023年度 佐久長聖高等学校 自己評価

目指す学校像	教育理念「自由と愛」のもと、生徒一人ひとりの個性を尊重し、楽しく充実した学校生活を通して、生徒たちが魅力的な人間に成長できる環境整備を積極的に推進する。
--------	--

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>魅力ある授業を生徒に提供できるための教科指導の研鑽に努める。</li> <li>生徒の進路実現に向けて、進路指導體制の発展に努める。</li> <li>生徒との前向きな対話のある生活指導・学級運営を行う。</li> <li>心身ともに健康で明るい学校生活をが送れるよう、生徒の人権を尊重し安心安全な学校づくりを進める。</li> <li>学校の教育活動を生徒や保護者、本校志願者、地域に対し、幅広く情報発信を行う。</li> </ol>
------	---

評価
A: 十分
B: 概ね十分
C: やや不十分
D: 不十分

	評価項目	評価の観点	評価	具体的取組状況・成果	課題・問題点
1	学習指導 進路指導	生徒の学ぶ意欲を引き出し、主体的に取り組む態度を育む授業が行えたか。	B	成績評価のつながる課題だけでなく、放課後ゼミなどで多面的に学習を促せた。／英検(準1級)に挑戦する生徒を増やすことができた。／教科書の内容だけでなく、実践を取り入れた内容を行えた。／クラスメイトと協力する場面、個人で考える場面、教員が知識を伝える場面などメリハリをつけるよう心掛けた。／特に3年生は、進学後も見据えて学力を積み上げようとする姿勢や、(受験に関係なく)数学的内容に興味を抱いて取り組む姿が見られた。	生徒に実態に合わせた自己研鑽が必要。／授業内容に対して、得意か不得意かで興味の違が出てしまうと思うが、それに対しての完璧なケアはできていない。／「意欲」や「態度」は数値化できないため、「成果」として評価するのが難しい。／体育の授業に一生懸命取り組むは良いがそこに怪我のリスクが高くなった。／家庭学習に関しても、自主的に行う姿勢の育成。
		問題発見力、課題解決力、表現力、コミュニケーション能力を養う授業を展開できたか。	B	教科書で扱った文章そのものではなく、同様のテーマについて考察するレポート課題に取り組ませることができた。／現在の教科書が「課題探求型」の形式になっており、それを追いつながら指導をすることができた。／自ら発信したいという気持ちをもたせるような授業ができた。／随時、解答プロセスのプレゼンテーションの場や、グループ探求の機会を設けた。／単元が終わるごとに表現力やコミュニケーション能力を主目的とした授業を入れた。	授業進度が遅くなり、多くの教材に触れることができない。／生徒にとつての卑近な話題に対する「実感」と、世界的問題についての「知識」(例えばSDGs、ジェンダーの問題など)が乖離してしまっているように感じた。／授業の進度を重視しすぎたため、発言や問題解決能力を引き出すまでに至らなかった。／特に3年生については入試を視野に入れた演習＋解説という授業が多くなっていったのでアクティブな授業展開にはなりつらかったと思う。
		生徒の希望進路を実現するために、大学入試についての研究を行い、生徒個々に対応した指導が行えたか。	B	ベネッセハイスクールオンラインなどの進路情報を毎日欠かさず確認し日々自分の知識を更新している。／共通テストで高得点を取った生徒が多数いた。／特に3年生の推薦入試を受験した生徒の指導に関して大学の研究から始まり面接指導まできめ細やかな指導ができた。／昨年度出題された入試問題を網羅し、求められている事柄の分析は十分行い指導ができた。／大学入試のトレンドを追い、必要と考えた知識や技能の修練を図った。	最近の「難関大学の入試問題」が難化しているので入試問題の研鑽にもっと時間をかける必要があると思う。／次年度より施行される新課程入試についてまだ暗中模索の状態と言っている。実際にどのような問題が出されるか情報が不足している面が多く不安は小さくない。／3年間を通じて学級担任を持ったことで1年次からの見通しをもった指導の重要性に気づいた。
		大学のさらに先を意識しながら進路を考えられるようなキャリア教育や進路指導を実践していたか。	B	生徒との会話の中で今頑張ることを具体的にアドバイスできた。／探究活動の支援をはじめ個々の興味探求を深めさせることで将来につながる学びを支援できた。／1年時より継続的に啓発を行ってきた。／大学卒業後の進路を報告に来てくれる学生が増えてきている。／インターンシップ体験については、昨年度のワークシートに、先を見通したワークシートを付け加えた。	自分に自信が持てない生徒が増えてきたように感じる。／担任によって指導の力点に差がある。／大学側から学部を指定されたため、大学のさらに先は考えられていないケースがある。／直接、卒業生や社会人に話をしてもらおう機会を作りがたかった。／活動ノートや、Classiなどで、適宜、発信はしているが、浸透していくのは難しい。／職場体験について中学校でのそれとの違いがわかりづらい。
2	生徒指導	校内外問わず、いじめ・暴力・SNSトラブルなどのない安心・安全な学校を送るための啓発活動を行い、情報収集を行えたか。	B	問題が起こってからの事後処理をするのではなく、予防をしっかりと申し合わせてきた。おかげ様で大きなトラブルなく1年を締めくくることができた。／職員会議等で話題になったことを必ずHRで伝えて啓発に努めた。／外部からの情報や保護者からの情報提供を活かすことができた。／生徒からの情報収集を常に行い学年や部活の状況を把握し必要と感じれば仲介することで問題を事前に防いだ。	スマホやタブレットを使う前提で、ルールではなくマナー意識をどう持たせるかが問題だと考える。／生徒との信頼関係を築くのに時間がかかる場合情報収集に時間がかかり、常に新しい情報を収集しないと状況把握に誤差が生まれてしまう。／校外における部分までは把握しきれてない。／SNSなどアカウントがロックできるので確認することはほぼ不可能。生徒達の良心を信じることしかできないのか。
		生徒に体罰や暴言と捉えられるような言動を行わなかったか。	A	全ての生徒に対し必ず「敬意」を持って接するよう心がけている。／いかなる場合でも丁寧に対応し確認など怠らないよう気にかけた。／言葉遣いを気を付ける前に取り乱さず冷静に対処できるよう心掛け、安定した指導が続けられている。／授業中の指名に対して、答えられない生徒へのフォローの声がけを必ずするよう心がけていた。／厳しく指導することはあっても、生徒の人格を傷つけるような発言をしないよう意識していた。	ダメなことはダメと注意することが正しいはずなのに注意すら暴言と捉えられてしまう可能性がある。／人にとって受け取り方が違う。また、お互いの関係性で同じ言動をしても違う。そこを見極めるのが難しい。／暴言を避けつつも生徒を戒める言葉は必要ではあるが、そのような指導方法への学びが不足していた。／生徒に対して感情で言っているのではなく「教えている」と思わせられるような話し方をしなくてはならない。
3	保護者連携 地域連携	保護者や外部からの声に対してきちんと対応・返答できたか。	B	時間をなるべく空けず出来る限り早めの返答や回答ができた。／真摯に向き合う事は大事だが何でも聞けば良いというわけではないのでそのバランスは上手くとれたと判断している。／外部からの所謂「苦情」を、工夫して生徒に伝達できた。／英検、奨学金、文化祭の係の関係で保護者とや外部の方と接する機会があったが適切に対応できていたように思う。／三者懇談のみならず個別のメールにも学年主任や教頭と相談しながら真摯に対応している。	トラブルに対して対応したが良いに受け入れてもらえなかったことが複数回あった。／私はなるべく一人で抱え込まないようにしているがそうではない人もいると思うのでサポート体制が整うとよい。／対症療法的な指導でなく、予防医療的に情報を捉えられるよう改善すべき。／休日に連絡が来たり三者懇談を休日に要望されたりして、休日が休日にならないことがある。
		ホームページ・Classi等で積極的に学校・学年・学級・クラブ等の情報発信ができたか。	C	Classiを活用しクラスの様子を配信し、保護者からの反応も良好であった。／定期的にClassiを使ってクラブや英検の情報を発信することができた。／保護者から感謝されることがあるので、一定の効果はあるのではと思う。／Classi学級通信はほぼ毎日、Classi学年通信は毎週出した。／学期始め、終わりなど保護者への連絡、Gmailにて保護者とのやり取りなどしっかりと情報共有できた。	進路の情報も随時発信し保護者が家庭でできる子供のサポートに役立てるようにしていきたい。／学習状況、1年間の流れの中での、生徒たちの位置づけなどをお伝えできるようにしたい。／昨年度より配信が減ってしまったので、来年度は積極的に発信するつもりです。／昨今の生徒はネット上のやり取りが多く恒常的に通知を多量に受け取っているため、反応の鈍い生徒がいて対面での通知が欠かせない。